

グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 種実圧痕のある擦文土器

02 シマエナガはいますか？

Vol.334

2025/05/01



八重柏誠《謎のエエンチャシ》

Photo 今月の1枚

大正橋を昭野側に渡った目先の崖の上に、エエンチャシがあったと伝えられています。町史ではピラ（崖）チャシの名で紹介されています。言い伝えによると、根室のアイヌが攻めてきた時に、美幌のアイヌがこの場所で防戦した古戦場だったとされていますが、実際に戦いが行われていたか定かではありません。（八重柏誠）



01 Green Column グリーンコラム

種実圧痕のある 擦文土器

写真・文／八重柏誠

7世紀～13世紀にかけて、北海道では擦文文化が栄えていました。この当時、使われていた土器は、表面から縄文模様が消え、代わりにへら状の道具で土器の表面を擦って磨いたような痕跡が見られるようになります。これらを擦文土器と呼んでおり、本州の土師器^{はじき}の影響を強く受けて作られたものと考えられています。美幌博物館の展示室には、14点の擦文土器が展示されています。

擦文土器は、大型で深さのある甕形^{かめがた}土器、小型で浅い碗のような形をした坏形土器^{つきがた}、坏に脚のついた高坏形土器などの形のものがあります。展示室にある坏形土器をよく見てみると、土器の内側にプツプツと小さな穴がいくつも開いたものが1点ありました。この穴の形を東京大学の太田圭氏（東京大学常呂実習施設）が分析した結果、種実を押し付けてできた圧痕であり、

その多くがキビの種実であることがわかりました。擦文文化では、アワやキビ、ムギなどの雑穀栽培が行われていたと考えられています。この土器が見つかった元町2遺跡からは、当時そこに畑があったかどうかは確認されていません。また、農耕を示す道具も見つかっていないことから、その場所で農耕が行われていたかどうか、明らかになっていません。圧痕は土器作りの際に意図的につけられた可能性があるものの、なぜキビを押し付けたのかは不明です。おまじないのようなことを期待して、圧痕を残したのでしょうか。少し不思議な土器ですね。

シマエナガは いますか？

写真・文／町田善康



野鳥に関する最も多い問い合わせは、「美幌町内に、エナガ（シマエナガ）はいますか？」です。その答えは、“います”です。すると、続けざまに聞かれるのは、「どこにいますか？」です。さあ、困りました。実は、このエナガ（シマエナガ）は、みどりの村やせせらぎ公園など、至るところで見ることができます。それこそどこにでもいる普通の鳥なのです。

しかし、普通にいるくせに、いざ探すと、木の高いところをちょこまか動いていることが多く、皆さんが望む丸く膨らんだ姿はなかなか見ることができません。

それでも、一度は出会いたいと思う方が多いはずですから、エナガ（シマエナガ）に出会うとおきのコツをお知らせします。それは、鳴き声を覚えることです。体は小さいくせに、結構大きな声で「ジュルリ・ジュルリ」

と鳴きます。森に入れば必ず声を聞くほど、よく鳴く鳥ですから、声のする方向を観察すれば、必ず出会えるはずです。

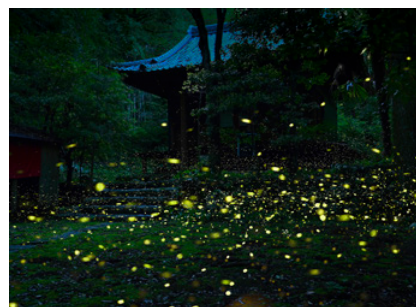
また、もし一度出会えた場所があれば、その場所で少し待ってみましょう。小さな公園だと、小鳥たちは決まったルートを巡回していることが多く、1時間に1回程度は同じ場所を通ります。木になったつもりでじっと待っていると、結構近くまで寄ってきてくれることもあります。

まだ葉が生えていないこの時期は、野鳥観察にもってこいですから、エナガ（シマエナガ）探しに出かけてみるのも楽しいと思います。

Exhibition 展示

特別展「蛍が舞う風景」

～10月26日(日)



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

こどもの日無料開館

5/5(月) 9:30～17:00

美幌博物館

対 象／どなたでも

申込み／申込み不要

こどもの日イベント

5/5(月) 9:30～14:00

美幌博物館・無料

対 象／どなたでも

申込み／申込み不要。柏もちは先着 500 名。

博物館講座(歴史編)「歩いて発見! ぶら博物館」

5/17(土) 10:00～11:30

美幌町市街地(集合解散は美幌町役場)・100 円

講 師／八重柏 誠(美幌博物館)

対 象／中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み／美幌博物館に電話で申込み(-5/14)。定員 25 名で締切。

プチ工房「宝石発掘」

5/23(金)、24(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1 階 講座室・300 円

講 師／町田善康(美幌博物館)

対 象／どなたでも(小学 3 年生以下は保護者同伴)

申込み／美幌博物館に電話で申込み。各日 50 名で締切。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越などでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

昨年の冬にサケの遡上が遅いという話をしました。だから、今年の春は、サケが無事に生まれたのか心配で川に通っています。しかし、残念ながら、まだサケの稚魚に出会えていません。果たしてサケは無事に生まれるのか？もう少し注視したいと思います。(町田善康)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

